

3 【環境学習の取り組みについて】

(1) 「環境学習」の認知度

◇『知っている』が3割台半ば

問9 あなたは、「環境学習」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

<図表9-1> 「環境学習」の認知度



「環境学習」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(5.3%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(31.3%)を合わせた『知っている』(36.6%)は3割台半ばとなっている。一方、「知らない」(61.6%)は6割を超えている。(図表9-1)

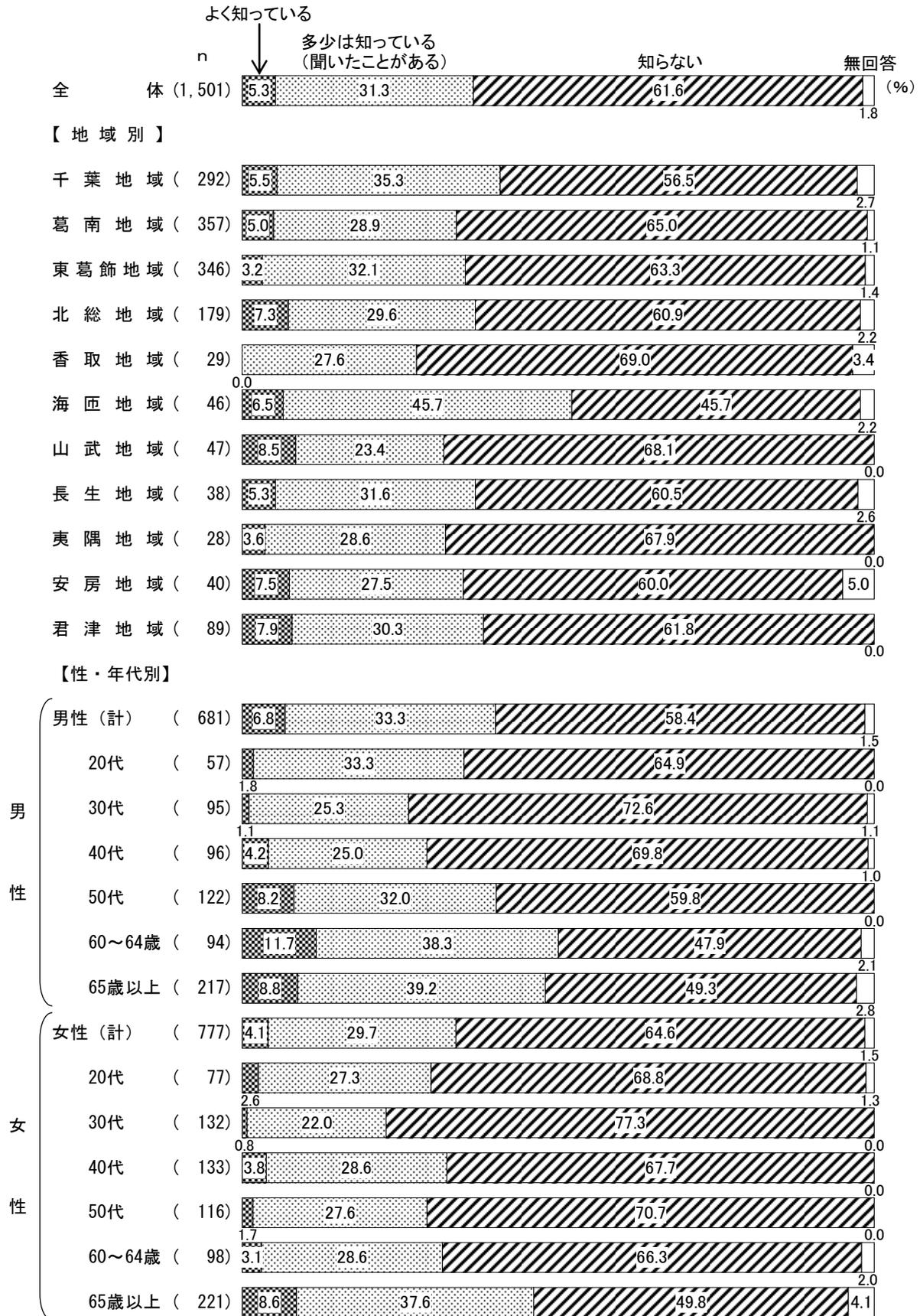
【地域別】

地域別にみると、『知っている』は“海匠地域”(52.2%)が5割台半ばで他の地域に比べて高くなっている。(図表9-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている』は男性60～64歳(50.0%)が5割と最も高く、次に男性65歳以上(48.0%)が約5割で、女性65歳以上(46.2%)が4割台半ばとなっている。(図表9-2)

<図表9-2> 「環境学習」の認知度／地域別、性・年代別



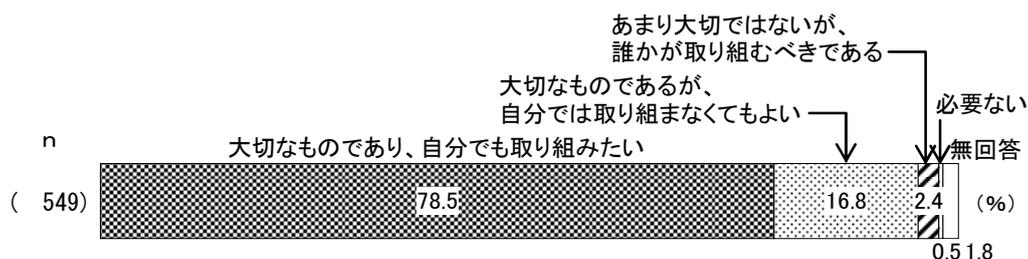
(1-1) 「環境学習」についての考え方

◇「大切なものであり、自分でも取り組みたい」が約8割

(問9で「1 よく知っている」「2 多少は知っている(聞いたことがある)」と答えた方に)

問9-1 あなたは、「環境学習」についてどう思いますか。(○は1つ)

<図表9-1-1> 「環境学習」についての考え方



問9で「環境学習」を「よく知っている」「多少は知っている(聞いたことがある)」と回答した人(549人)に「環境学習」についての考え方を聞いたところ、「大切なものであり、自分でも取り組みたい」(78.5%)が約8割となっており、以下、「大切なものであるが、自分では取り組みなくてもよい」(16.8%)、「あまり大切ではないが、誰かが取り組むべきである」(2.4%)と続く。

(図表9-1-1)

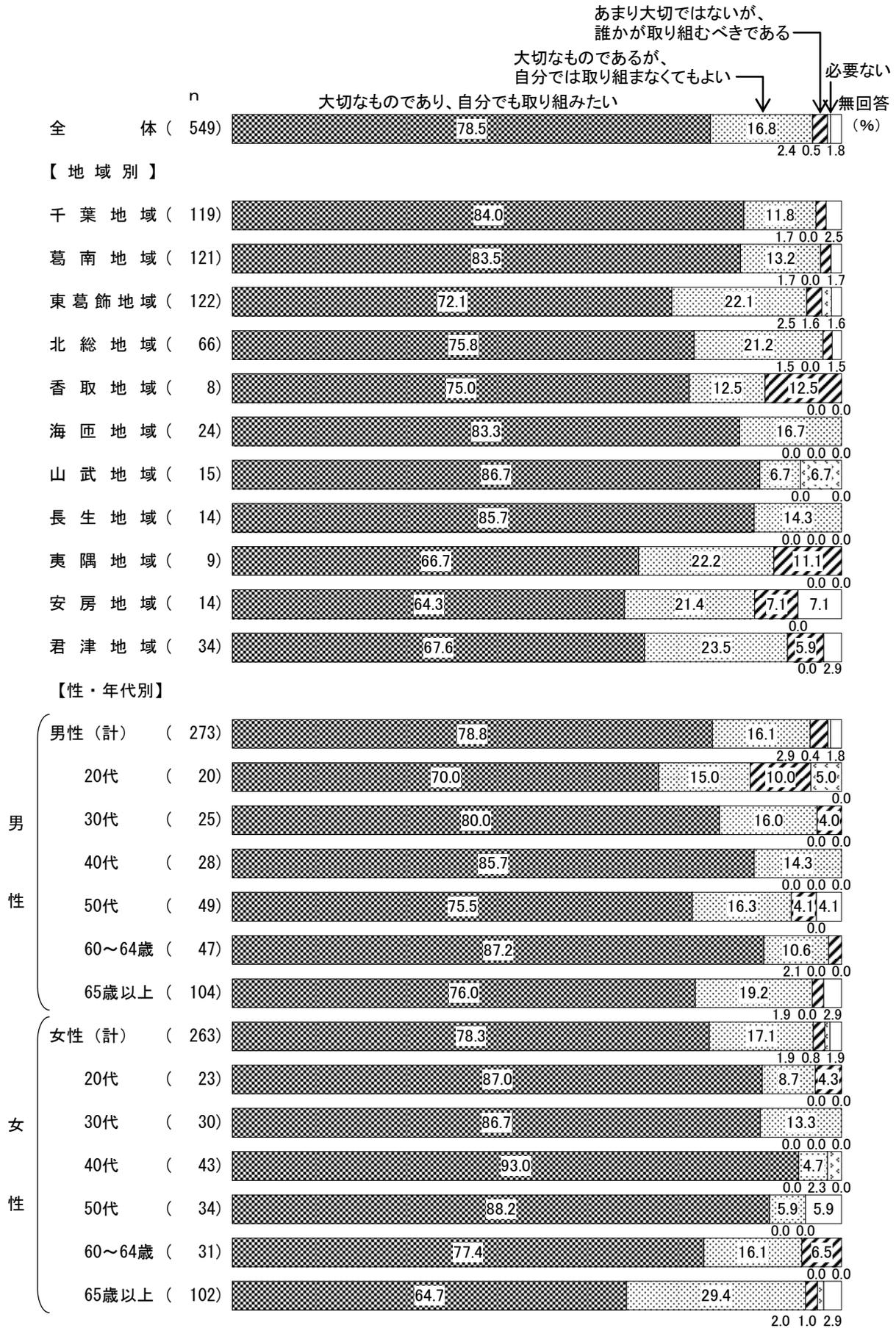
【地域別】

地域別にみると、「大切なものであり、自分でも取り組みたい」は“山武地域”(86.7%)、“長生地域”(85.7%)が8割台半ばとなっている。(図表9-1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「大切なものであり、自分でも取り組みたい」は男性60～64歳(87.2%)が約9割で、女性40代(93.0%)が9割台半ばで他の年代と比べ高くなっている。(図表9-1-2)

<図表9-2-2> 「環境学習」についての考え方／地域別、性・年代別

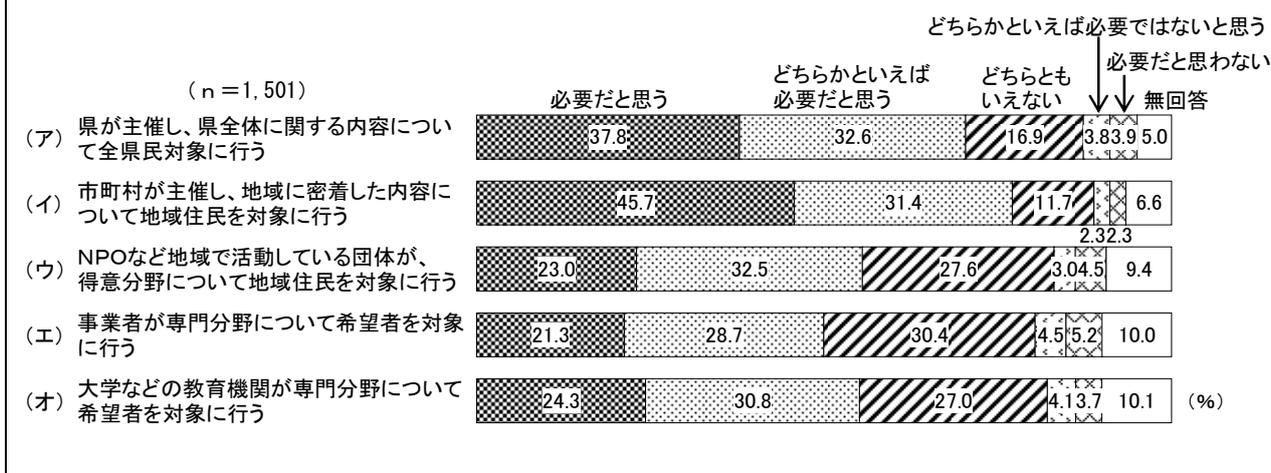


(2) 「環境学習」の機会を提供する方法

◇『必要だと思う』が最も高いのは、＜市町村が主催し、地域に密着した内容について地域住民を対象に行う＞で約8割

問10 あなたは、「環境学習」が効果的に行われる（学習した人が環境を良くしようという考えを持ったり、行動に移したりする）ためにどのような学習機会を提供することが必要だと思いますか。（○はそれぞれ1つ）

＜図表 10－1＞「環境学習」の機会を提供する方法



「環境学習」の機会を提供する方法に関する5項目についてそれぞれの必要度を聞いたところ、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた『必要だと思う』は、最も高いのは＜市町村が主催し、地域に密着した内容について地域住民を対象に行う＞（77.1%）で約8割となっており、以下、＜県が主催し、県全体に関する内容について全県民対象に行う＞（70.4%）、＜NPOなど地域で活動している団体が、得意分野について地域住民を対象に行う＞（55.5%）などが続く。

（図表 10－1）

【地域別】

地域別にみると、＜市町村が主催し、地域に密着した内容について地域住民を対象に行う＞において、『必要だと思う』は“安房地域”（85.0%）が8割台半ばで他の地域と比べ高くなっている。

＜県が主催し、県全体に関する内容について全県民対象に行う＞において、『必要だと思う』は“海匠地域”（82.6%）が8割台半ばで他の地域と比べて高くなっている。（図表 10－2）

【性・年代別】

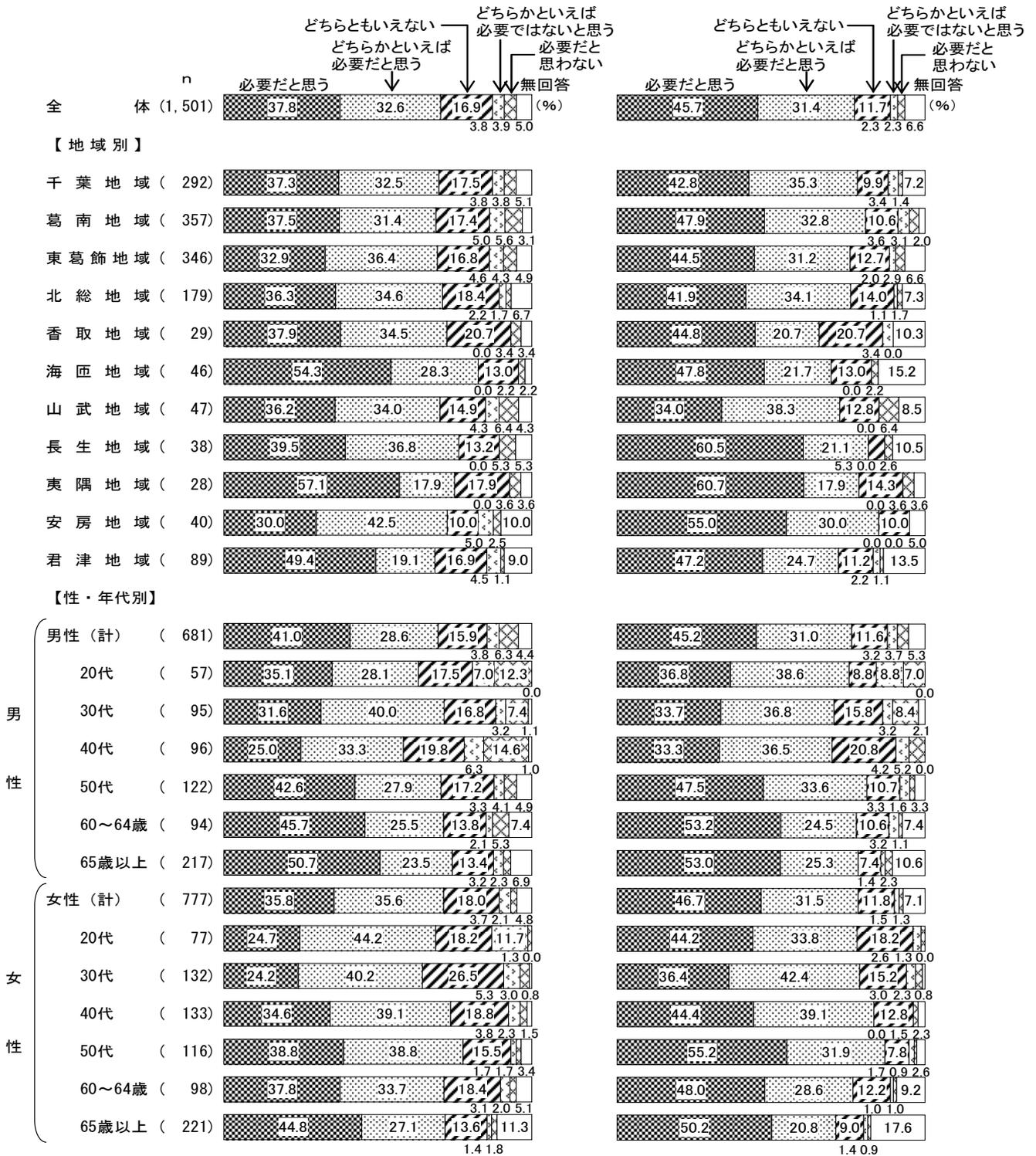
性・年代別にみると、＜市町村が主催し、地域に密着した内容について地域住民を対象に行う＞において、『必要だと思う』は男性50代（81.1%）が8割を超え、女性50代（87.1%）が約9割で他の年代と比べ高くなっている。

＜県が主催し、県全体に関する内容について全県民対象に行う＞において、『必要だと思う』は男性65歳以上（74.2%）が7割台半ば、女性50代（77.6%）が約8割となっている。（図表10－2）

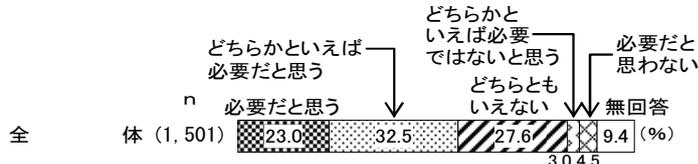
<図表 10-2> 「環境学習」の機会を提供する方法／地域別、性・年代別

(ア) 県が主催し、県全体に関する内容について、
全県民対象に行う

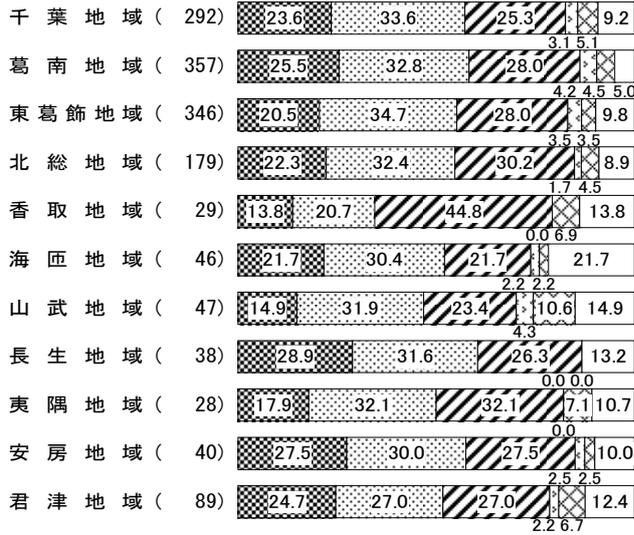
(イ) 市町村が主催し、地域に密着した内容について、
地域住民を対象に行う



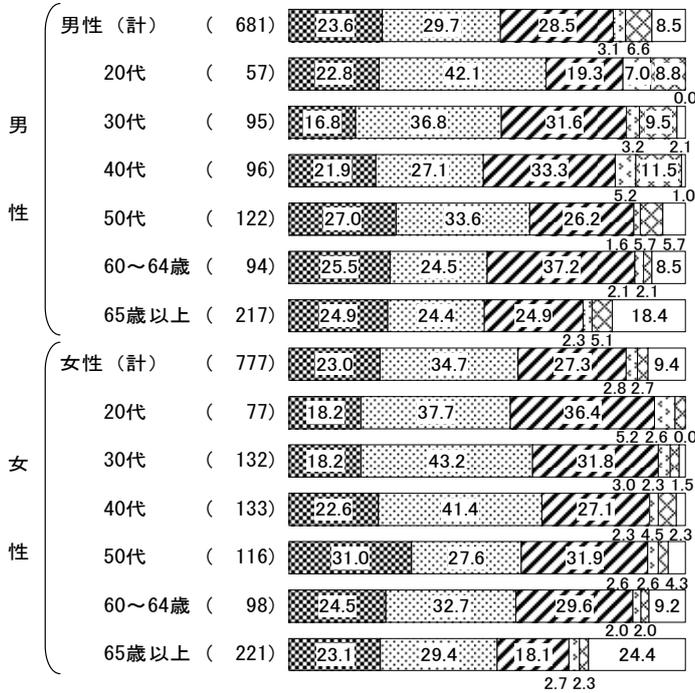
(ウ)NPOなど地域で活動している団体が、
得意分野について地域住民を対象に行う



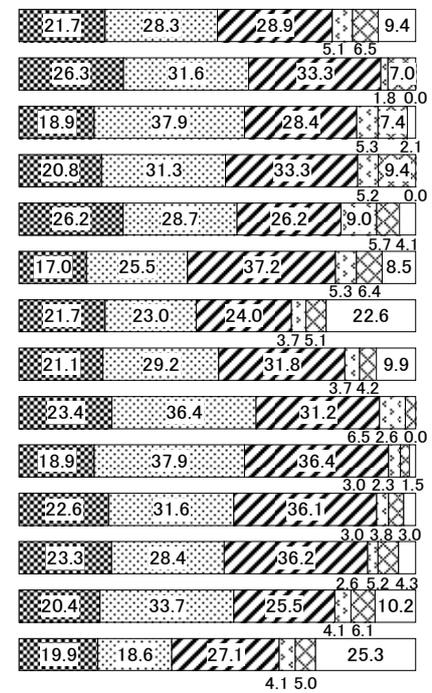
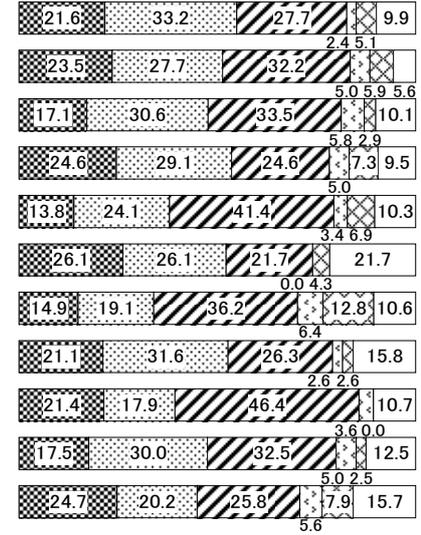
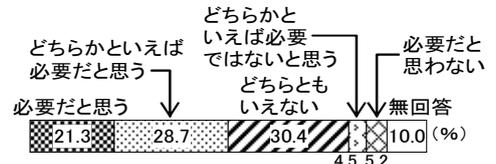
【地域別】



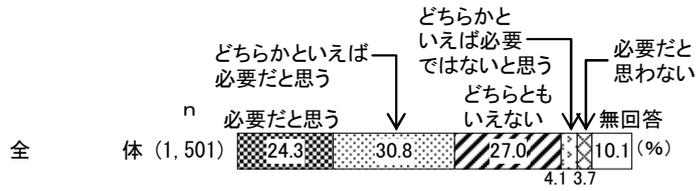
【性・年代別】



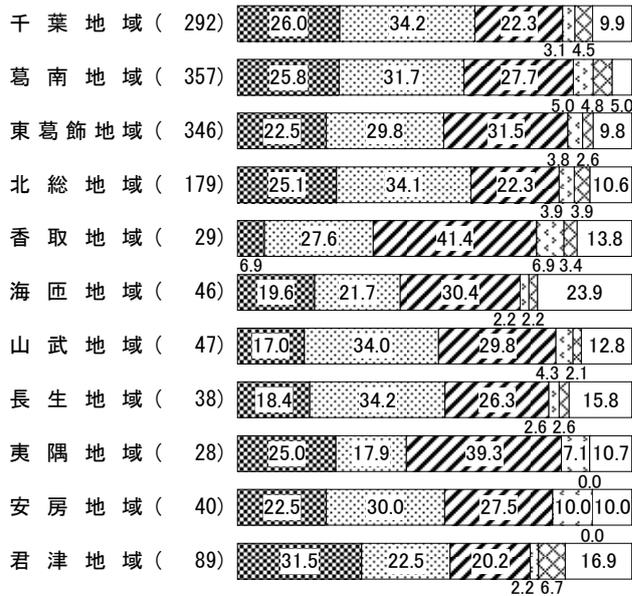
(エ)事業者が専門分野について
希望者を対象に行う



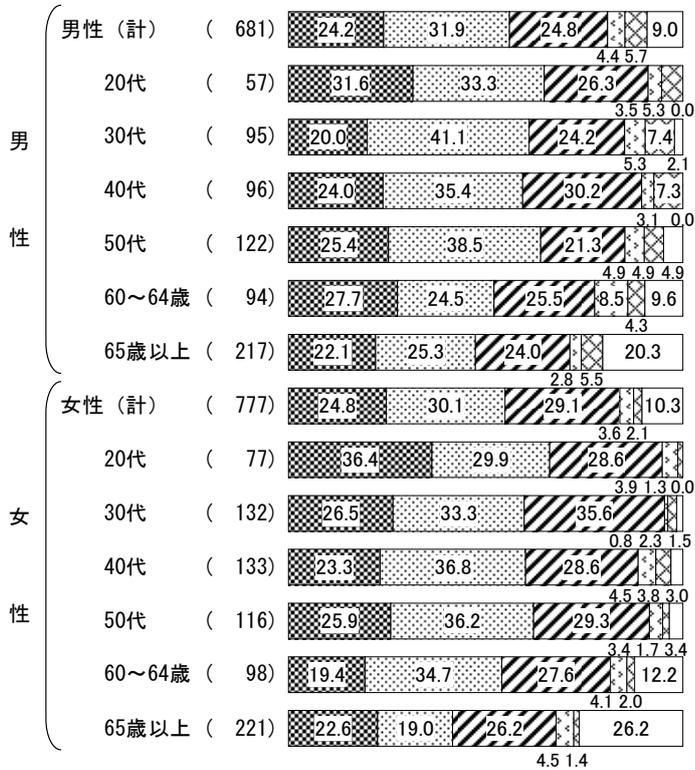
(オ) 大学などの教育機関が専門分野について希望者を対象に行う



【地域別】



【性・年代別】

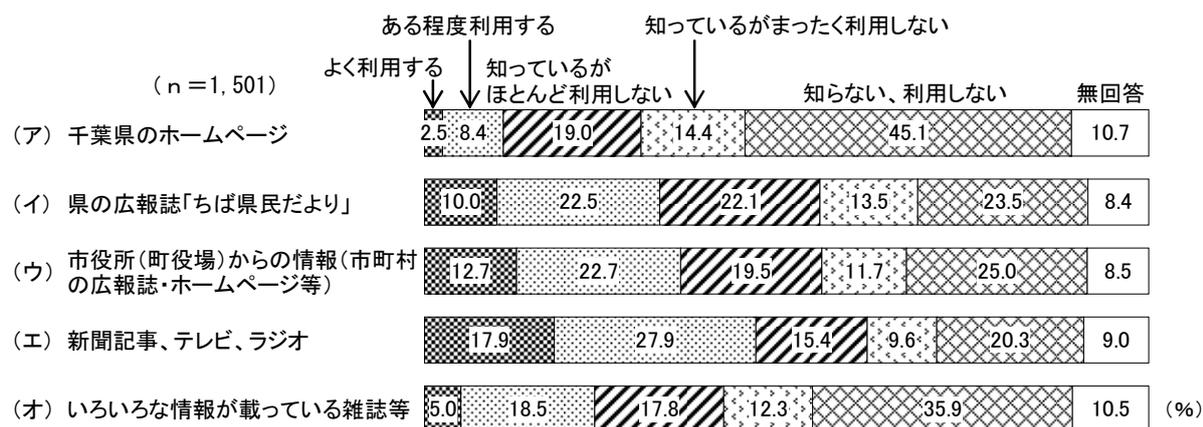


(3) 「環境学習」に関する情報を得る手段

◇『利用する』が最も高いのは<新聞記事、テレビ、ラジオ>で4割台半ば

問11 あなたは、「環境学習」に関する情報をさがす時にどのような手段で得ていますか。
(〇はそれぞれ1つ)

<図表 11-1> 「環境学習」に関する情報を得る手段



「環境学習」に関する情報を得る手段についてそれぞれの利用頻度を聞いたところ、「よく利用する」と「ある程度利用する」を合わせた『利用する』は<新聞記事、テレビ、ラジオ> (45.8%)で4割台半ばとなっており、以下、<市役所(町役場)からの情報(市町村の広報誌・ホームページ等)> (35.4%)、<県の広報誌「ちば県民だより」> (32.5%)などが続く。

(図表 11-1)

【地域別】

地域別にみると、<新聞記事、テレビ、ラジオ>において、『利用する』は“海匠地域”(50.0%)、“葛南地域”(49.6%)、“千葉地域”(48.6%)が5割前後となっている。また、<市役所(町役場)からの情報(市町村の広報誌・ホームページ等)>において、『利用する』が“長生地域”(55.2%)で5割を超えている。(図表 11-2)

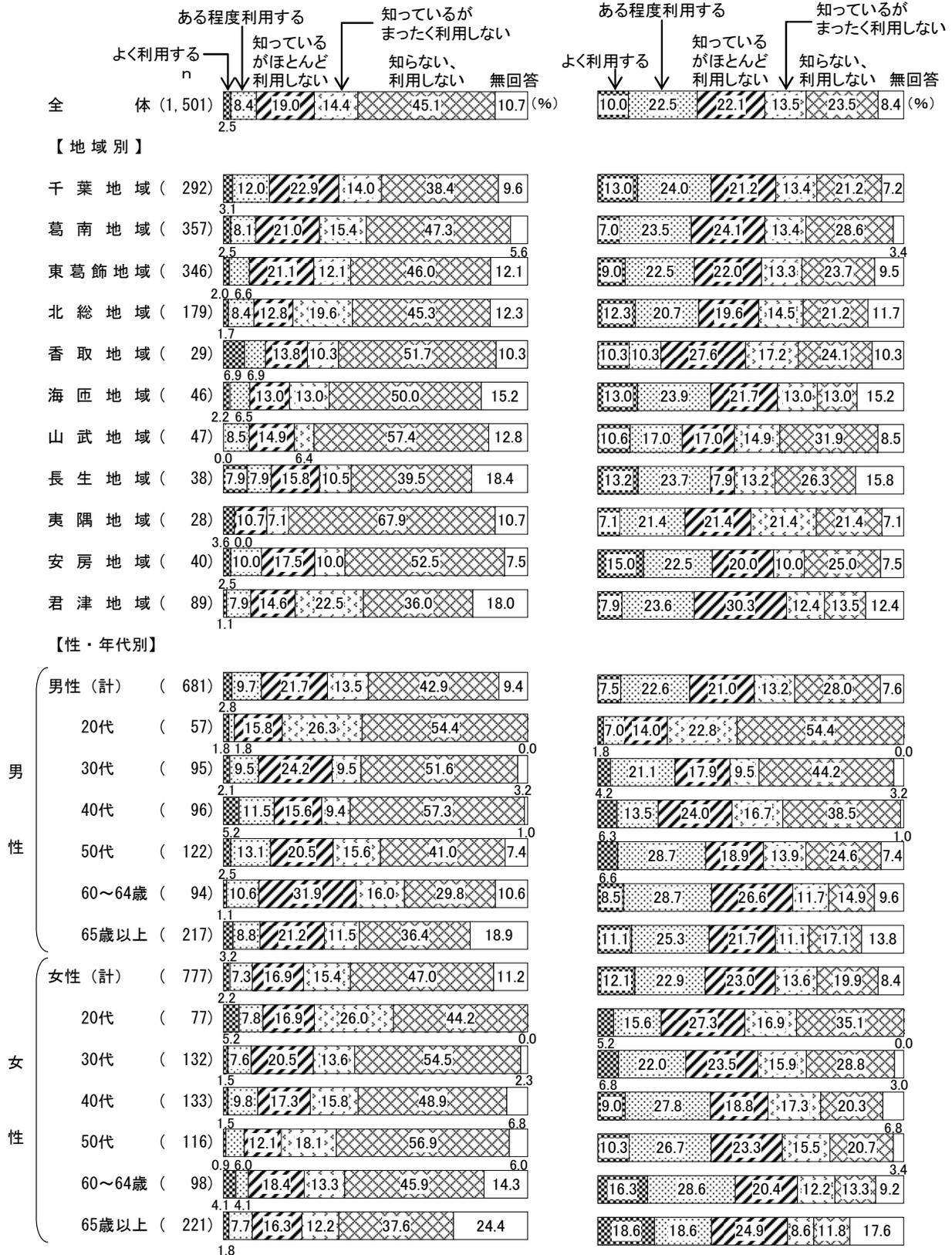
【性・年代別】

性・年代別にみると、<新聞記事、テレビ、ラジオ>において、『利用する』は男性65歳以上(51.1%)が5割を超え、女性40代(53.3%)、60~64歳(53.0%)で5割台半ばとなっている。<市役所(町役場)からの情報(市町村の広報誌・ホームページ等)>において、『利用する』は男性65歳以上(47.5%)が約5割で、女性60~64歳(51.0%)が5割を超え他の年代と比べ高くなっている。(図表11-2)

<図表 11-2> 「環境学習」に関する情報を得る手段／地域別、性・年代別

(ア) 千葉県のホームページ

(イ) 県の広報誌「ちば県民だより」



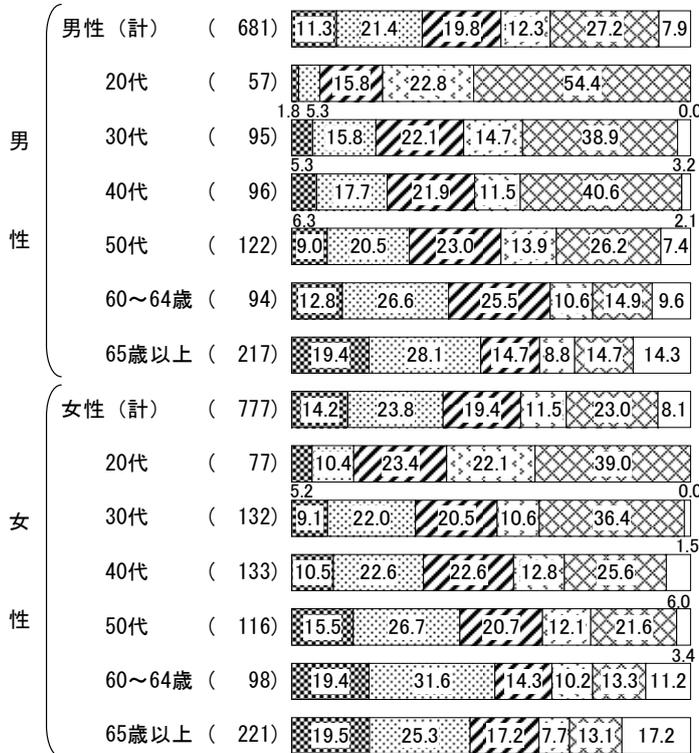
(ウ)市役所(町役場)からの情報(市町村の
広報誌・ホームページ等)



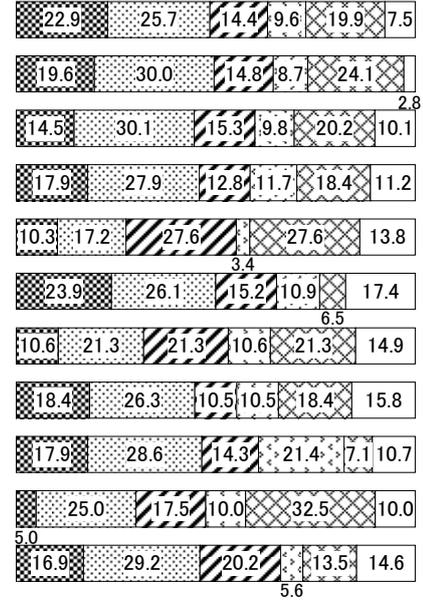
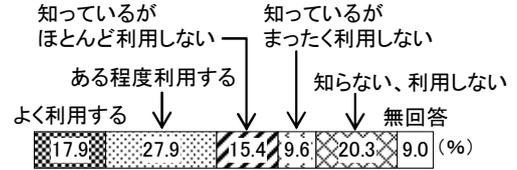
【地域別】



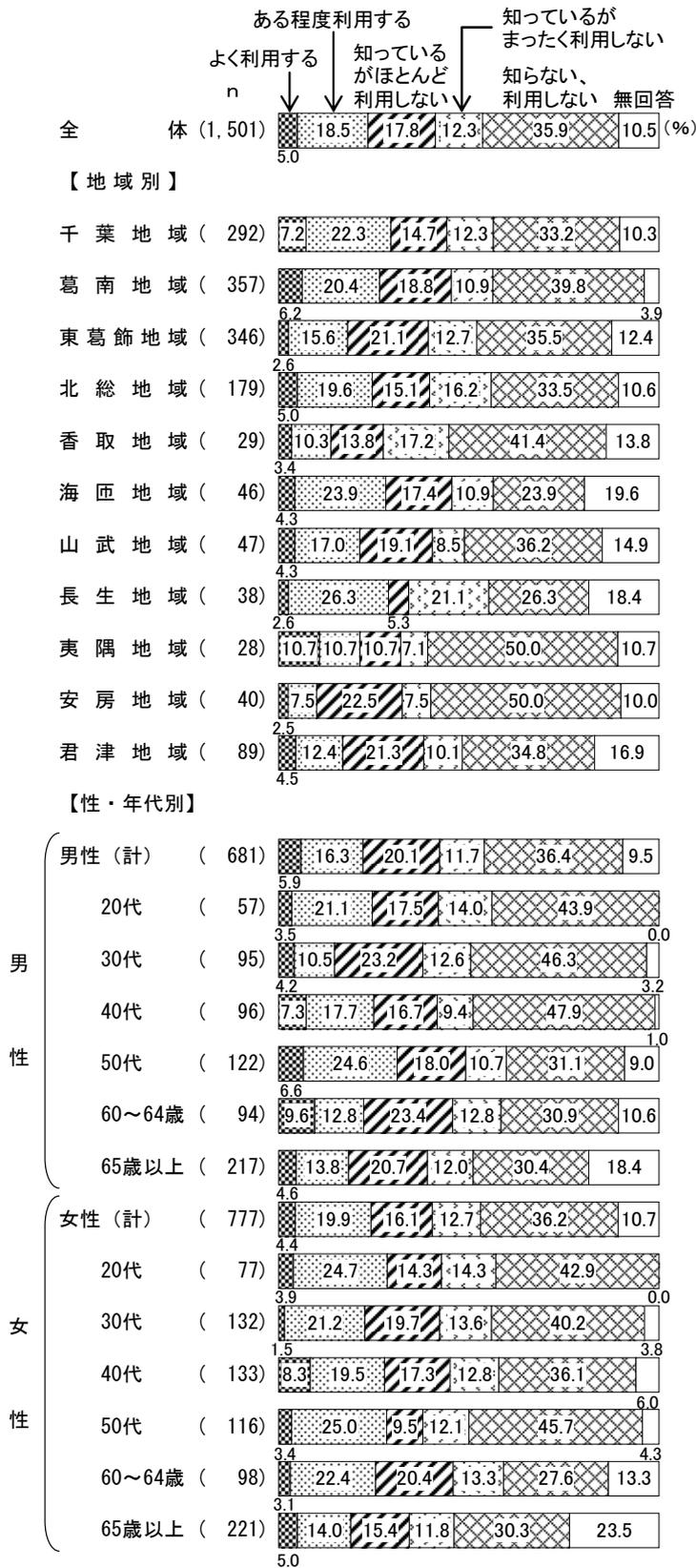
【性・年代別】



(エ)新聞記事、テレビ、ラジオ



(オ)いろいろな情報が載っている雑誌等



問 「環境学習の取り組み」やここまでの質問（問9～問11）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、114人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■ 「環境学習の取り組み」の自由回答(抜粋)

- 知らない県民がいる事はアピールの方法などに問題があるのでは？関心は大いにあるが、取り組みを知らなかった事は残念でありショックです。(男性・40代・葛南地域)
- 環境学習という言葉あまりよく知らなかった。とても大切な取り組みのようなので、小学校等で小さいころから生活の中に取り入れていった方が良いのではないのでしょうか。
(女性・50代・東葛飾地域)
- 大人に対しては“今更”という感が強い。取り組むべきは小さな子供(15才位)達。これからの子供達に教育することで意識をかえ、そのことで子の保護者にも良い影響ができるのではないかと思います。(女性・40代・葛南地域)
- 現在子育て中なので、子供が遊べる場所などから、自然と親子で「環境学習」ができていくようなことができればと思います。(女性・30代・千葉地域)
- 環境学習という言葉今まで知りませんでした。子供や高齢者にもわかりやすい説明や言葉で周知させていく必要があると思います。が、強制ではなく参加型がいいと思います。
(女性・30代・東葛飾地域)
- 少しでもたくさん、環境についての情報を発信させて、情報をえやすい仕組みをつくって下さい。(男性・30代・東葛飾地域)
- 県・市・企業・地域が一緒になって行って行って欲しいと思う。(男性・50代・君津地域)
- 「居住地区についての環境学習」だと身近で興味がわきやすいと思うので、市町村ごとに広報誌にのせるなどして、県民のモチベーションを上げていくべきだと思う。
(女性・20代・北総地域)
- 今更、県でうすっぺらな広報誌やセミナーなどで周知をはかるのは経費のムダ。それより、環境保全にとりくむ企業や生産者を増やし、支援する事が大切。(女性・40代・東葛飾地域)
- 情報が少ない。あるいは、限られているのでは？企業に絡めて教育をすれば、働く人間にも浸透するのではないか？(女性・40代・君津地域)